

ヒラメ人工種苗の性比と飼育水温との関連

福島県水産種苗研究所
平成14～15年度福島県水産種苗研究所事業報告書

1 部門名

水産業一種苗研究(基礎)一種苗生産、ヒラメ
分類コード 19-07-19400000

2 担当者

渡邊昌人

3 要旨

ヒラメでは、性分化時期(全長10～50mm)の飼育水温が適温と差がある場合、遺伝的な雌が性転換して機能的な雄になる事例が報告されている。

当研究所及び放流用種苗生産施設で生産されたヒラメ人工種苗の中に、性比が偏った群があり、その要因は飼育水温であると考えられた。

そこで、当研究所においてヒラメ人工種苗を飼育し、その性比等の異常と飼育水温(平均水温を18℃、19℃、20℃の3区に設定)との関連性について検討し、以下の結果を得た。

- (1) 雌の割合は、平均飼育水温が高くなるほど低下した。
- (2) 無眼側の体色異常魚の割合は、平均飼育水温が高くなるほど上昇した。
- (3) 脊椎骨癒合魚の割合は、平均飼育水温が高くなるほど上昇した。

本県では、自然海水温が18℃を超えるのは早い年で6月上旬である。それまでに性分化時期である60日齢を過ぎていなければ、上記の異常が生じる可能性が高くなる。

したがって、種苗生産は、4月上旬以前に開始する必要がある。

4 その他の資料等

なし